

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

研究分担者 泉知里 （国立循環器病研究センター・心臓血管内科部長）

特発性心筋症に関する調査研究

研究要旨

抗ミトコンドリア抗体は、原発性胆汁性肝硬変において認められる自己抗体として知られているが、近年、炎症性筋炎の患者においても同抗体が認められることが報告され、「抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎」と呼ばれている。原発性心筋症（特発性拡張型心筋症、肥大型心筋症など）と診断される症例の中に、抗ミトコンドリア抗体陽性例が存在している可能性がある。「抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎」においては免疫抑制療法の有効性が示されていることから、そのような一群を同定することが、将来的に原発性心筋症に対する有効な治療につながる可能性があると考えられる。2012年～2013年の間に、当院にて心筋生検を行い原発性心筋症の診断に至った症例において抗ミトコンドリア抗体の陽性率と臨床的意義を検討する。

A. 研究目的

原発性心筋症と診断されている症例における、抗ミトコンドリア抗体の陽性率と臨床的意義の検討すること

B. 研究方法

2012年～2013年の間に、当院にて心筋生検を行い原発性心筋症の診断に至った症例において、バイオバンク検体を用い、抗ミトコンドリア抗体の陽性率とその臨床像を検討する。

（倫理面への配慮）

本研究では、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づき、国立循環器病研究センター倫理委員会の承認を得た。同意についてはバイオバンク同意症例を対象としている。

C. 研究結果

現在研究中であるが、予備データとして、2019年9月から2020年2月の間に心筋生検を施行し、原発性心筋症と診断した連続132例において、主治医判断にて抗ミトコンドリア抗体または抗ミトコンドリアM2抗体を測定された症例を検証したところ、全132例のうち抗ミトコンドリア抗体陽性は4/132例（3.0%）、抗ミトコンドリア抗体M2抗体陽性は3/132例（2.2%）で認められた。

D. 考察

原発性心筋症（特発性拡張型心筋症、肥大型心筋症など）と診断される症例の中から、「抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎」が抽出できれば、治療選択に寄与する可能性がある。

E. 結論

原発性心筋症（特発性拡張型心筋症、肥大型心筋症など）と診断される症例の中に、抗ミトコンドリア抗体陽性例が存在している可能性がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 学会発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表（発表誌面巻号・ページ・発行年等も記入）
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし